

小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受ける方へ

【苫小牧市健康支援課 ☎ 0144-32-6407】

1 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の2大原因のひとつです。この菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を引き起こします。肺炎球菌による化膿性髄膜炎の罹患率は、ワクチン導入前は5歳未満人口10万対2.6~2.9とされ、年間150人前後が発症していると推定されていました。

致死率や後遺症例（水頭症、難聴、精神発達遅滞）などの頻度は、ヒブ（Hib）による髄膜炎より高く、約21%が予後不良とされています。

2 小児の肺炎球菌ワクチンについて

子どもで重い病気を起こしやすい13の血清型について、子どもの細菌性髄膜炎などを予防するように作られたのが、小児の肺炎球菌ワクチン（13価肺炎球菌結合型ワクチン）です。このワクチンは世界100か国以上で導入されており、その効果は高く評価されています。

日本では平成25年4月から定期接種化され、定期接種として導入後、侵襲性肺炎球菌感染症は激減し、ほとんど見られなくなりました。

3 副反応について

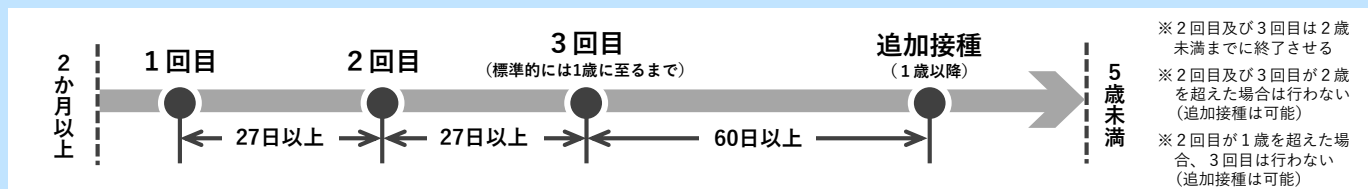
副反応としては、接種箇所の紅斑、腫脹（はれ）のほか、全身反応の主なものとして発熱が認められています。なお、重篤な副反応の発生頻度は、10万接種あたり1.9となっています。

接種スケジュールについて

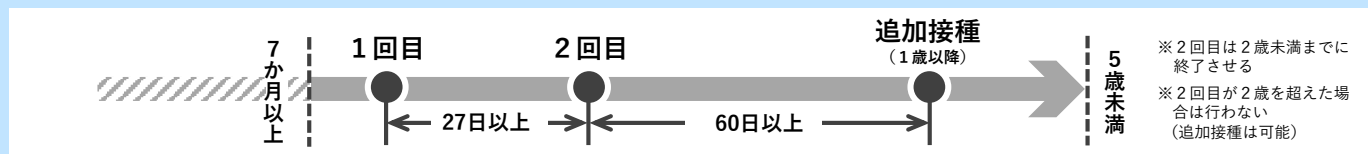
【定期予防接種として受けられる期間】

生後2か月～5歳に至る（誕生日の前日）まで

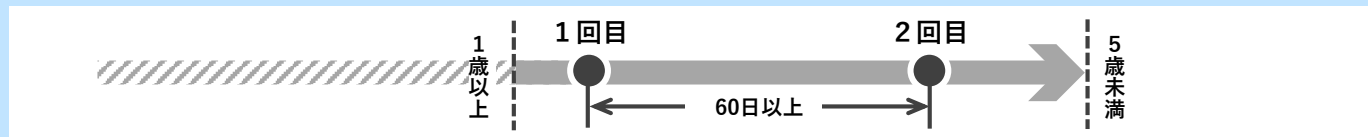
①【標準的な接種】初回接種が生後2か月以上7か月未満の方《4回接種》



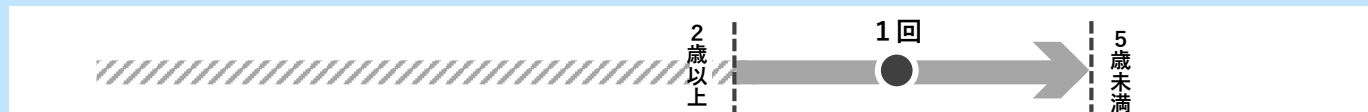
② 初回接種が生後7か月以上1歳未満の方《3回接種》



③ 初回接種が1歳以上2歳未満の方《2回接種》



④ 初回接種が2歳以上5歳未満の方《1回接種》



《予防接種救済制度について》

万が一、定期予防接種が原因で健康被害が発生した場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。この救済制度の請求について、厚生労働省が予防接種との因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

裏面もお読みください。

予防接種を受ける前の注意事項

予防接種を受ける前のチェック項目

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性や効果及び副反応など理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- 『母子健康手帳』は持っていますか。
- 予診票の記入は済みですか。
- 保護者の方が同伴できない場合には、代理人の方に委任状を渡しましたか。

次のような方は予防接種を受けられません

- 接種会場（医療機関）で測定した体温が37.5℃以上のお子さん
- 重とくな急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあるお子さん（※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。）
- その他、医師が不適当な状態と判断した人

次のような方は予防接種を受ける前にお医者さんとよく相談してください

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けているお子さん
- 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られたお子さん
- 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
 - けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、その後起こったか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- 過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（例えば、赤ちゃんの頃、肛門の周りにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

予防接種を受けた後の注意事項

- 接種を受けたあと30分程度は、接種した医療機関でお子さんの様子を観察するか、先生とすぐに連絡を取るようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- 異なるワクチンの予防接種を受けるまでに必要な間隔は次のとおりです。

※令和2年10月に接種間隔が改定され、生ワクチン（注射）のあとに生ワクチン（注射）を接種する場合以外は、制限がなくなりました。

異なるワクチンの接種間隔パターン

※以下のパターンは、あくまでも異なるワクチンを接種する場合の接種間隔です。
同一ワクチンの接種間隔は、各ワクチンごとに定められた接種間隔に従ってください。

